

みんな知ってる? こども新聞コンクール

小学生対象の長野県こども新聞コンクールが今年も開かれ、9月に審査、10月に表彰式がありました。こども記者クラブのみんなもたくさん応募してくれました。どんなコンクールなのか紹介します。

本物の新聞作りの

ノウハウがいっぱい

手作りの新聞づくりは、取材するほかに、どんなテーマにするかあれこれ悩んだり、みんなに伝わりやすい文章や見出し、レイアウトを工夫したり、本物の新聞作りと同じノウハウがいっぱい詰まっている。一番は楽しみながら作ること。来年挑戦してみてね。いま6年生の人は、中学生を対象にした「新聞スクラップ作品コンクール」があるよ。

こんな願いを

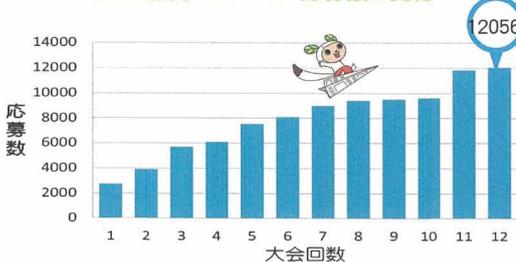
こめてるよ

- みんなに新聞の役割を知ってほしい
- 新聞づくりを通して身の回りの出来事や社会のことに目を向けてほしい
- 情報発信の力、人に伝える力をつけてほしい

応募数がどんどん増える

コンクールは今年で12回目。応募数は、1回目に2745点だったのが、毎年増えて、今回は1万2056点。これまでの応募数を合計すると、10万点を突破したよ。

こども新聞コンクール 応募数の変化



11回目までの作品は信毎のNIEのホームページで見られるよ。12回目の作品も今後載る予定です。
<http://www8.shinmai.co.jp/nie>



こども記者のみんなも活躍!

3・4年の部・優秀賞
酒井穂杏記者 (長野市・3年)

ニュースの部・優秀賞
橋部綾野記者 (佐久市・5年)



5・6年の部・優秀賞
小山奈乃実記者 (上田市・6年)



9月22日に、長野市の信毎本社で行った審査会



信毎こども新聞のページは、信毎の編集局(地域活動部)がこども記者と一しょに作っていますが、コンクールは信毎の販売局と新聞販売店が協力して運営し、個人がまとめた手作り新聞を応募してもらっています。信毎の読者センターが希望のあった学校を訪ねて、新聞づくりの教室もしています。

みんな最初は一年生

こだけのヒミツ!
ベテラン記者の失敗談



「入社26年目」
メテランネット事業部長
岸本 英一郎

のんびりムードは要注意

新聞は「朝刊」のほかに、「夕刊」があります。ただ「夕刊はいらないよ」というお家もありますよね。ですから、一日のニュースをまとめて朝だけ届ける新聞を「統合版」といい、1面の「信濃毎日新聞」と書いてある上の方に「6版」と書いてあります。夕刊をとっている家は「9版」と書いてある新聞が届きます。もう少し遅い時間のニュースも入るので、紙面の中身が大きく変わることもあります。私は22年前「整理記者」をしていました。整理記者はその日の記事ページごとに割り振ってレイアウトし、見出しをつけて新聞を完成させるのが仕事です。

ある日曜日、私は第2社会面を担当していました。日曜日は夕刊がなく、働いている人も少ない編集局内は、いつもよりはのんびりしたムードになります。そんな中、ちよと油断したのでしよう。6版を作り終えた後、コンピューターの操作を間違えてしまいました。その後作った9版用の第2社会面を印刷工場に送信しなければいけないのに、6版用の紙面をまた送ってしまったのです。中身はそれほど違わなかったのですが、9版の新聞は間違ったまま印刷され、配達されてしまいました。翌朝、整理部のデスクが気づいて大騒ぎに。私は社長あてに謝罪の文書へ「進退伺」といいます)を提出しました。忙しい時ややらなければいけない事がたくさんある時の方が、失敗すると思えますよね。でも、忙しい時の方が、良い意味で緊張しているので、つまらないミスはしないものです。それ以来、余裕があるときほど、気持ちを引き締めようと思っています。

信毎の新聞

【支社・支局】

ししゃ・しきよく
地域の中にある取材の拠点。信毎では本社のほかに、支社とそれより少し規模の小さい支局が合わせて約20カ所あり、地域の話題をきめ細かく取材している。長野県外には東京や名古屋支社、上越支局(新潟県)などがある。

第16版